

＜概 要 編＞

I 国内の主な特用林産物の生産動向

1 きのご類

令和元年のきのご類生産量は 456,437 トン(前年比 97.5%)で前年より減少している。

品目別では、「生しいたけ」「なめこ」「まいたけ」「きくらげ」は増加しているものの、他の全ての品目で減少している。品目別の生産量は、最も多い「えのきたけ」が 129,104 トン、以下、「ぶなしめじ」が 118,597 トン、「生しいたけ」が 71,112 トン、「まいたけ」が 51,146 トン、「エリンギ」が 37,635 トン、「なめこ」が 23,857 トン、「きくらげ類」が 2,315 トン、「その他のきのご」が 18,809 トンとなっている。

都道府県別では、長野県、新潟県、福岡県、北海道、宮崎県、大分県がきのご類の主産地となっている。

2 木炭等

令和元年の木炭(白炭と黒炭)生産量は、8,390 トン(前年比 96.0%)で、前年より減少している。

品目別では、「白炭」、「粉炭」、が前年より増加しているが、「黒炭」、「木酢液」は減少している。

品目別の生産量は、最も多い「粉炭」が 6,016 トン、「黒炭」が 5,232 トン、「白炭」が 3,157 トン、「木酢液」が 2,102 キロリットルとなっている。

都道府県別では、「木炭(白炭と黒炭)」が岩手県、高知県、和歌山県、北海道、熊本県、「粉炭」が島根県、奈良県、岐阜県、長野県、宮崎県、「木酢液」は岩手県、宮崎県、静岡県、熊本県、福島県、が主産地となっている。

3 山菜類

山菜類の生産量は、天候に左右されやすく、品目によって増減にバラツキがあるという特徴があり、「たけのこ」と「ふき」が大部分を占めている。

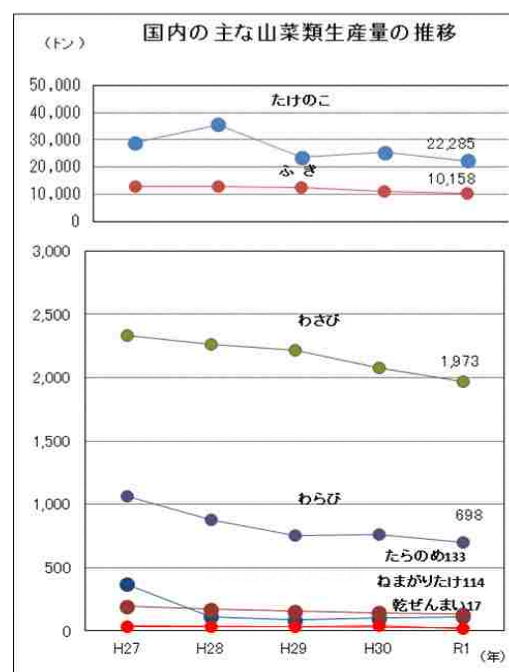
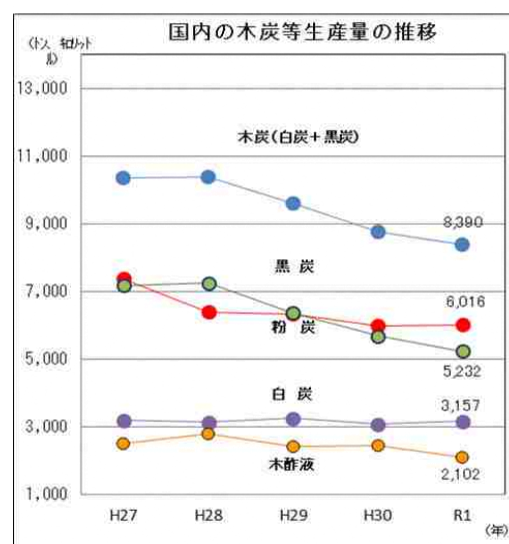
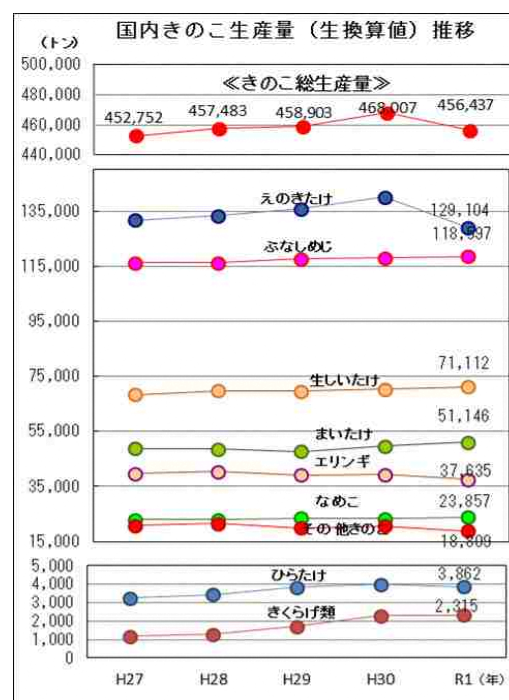
令和元年の品目別の生産量は、「たけのこ」が 22,285 トン(前年比 87.9%)で前年よりも 3,079 トン減少している。

その他は、「ふき」が 10,158 トン、「わさび」が 1,973 トン、「わらび」が 698 トン、「たらのめ」が 133 トン、「ねまがりたけ」が 114 トン、「乾ぜんまい」が 17 トンとなっている。

都道府県別では、福岡県、鹿児島県、愛知県、熊本県、京都府が山菜の主産地となっている。

4 その他

上記のほか、全国各地で「くり」、「くるみ」、「竹材」、「桐材」、「薬草類」などの特用林産物が生産されている。



II 北海道の主な特用林産物の生産動向

1 きのご類

北海道では、「生しいたけ」のほか、「えのきたけ」、「ぶなしめじ」、「まいたけ」、「なめこ」などのきのこが各地で生産されており、令和元年のきのこ類の都道府県順位は、長野県、新潟県、福岡県に次ぐ全国第4位に位置し、全国でも有数のきのこ生産地となっている。

品目別では、「たもぎたけ」が全国第1位、「生しいたけ」、「きくらげ類」が同第2位、「なめこ」及び「まいたけ」が同第5位となっている。

(1) 生産量

令和元年のきのこ類生産量(生換算値)は17,622トン(前年比94.6%)で、前年よりも997トン減少している。

品目別では、「乾しいたけ」、「生しいたけ」、「えのきたけ」、「なめこ」、「きくらげ類」は前年よりも減少している。

「たもぎたけ」、「ぶなしめじ」、は前年並みで、「まいたけ」が前年より増加している。

地域別では、胆振、上川、空知、石狩地域が主産地となっており、この4地域で道内生産量の91.6%を占めている。なお、「生しいたけ」の生産量は、97.3%が菌床栽培となっている。

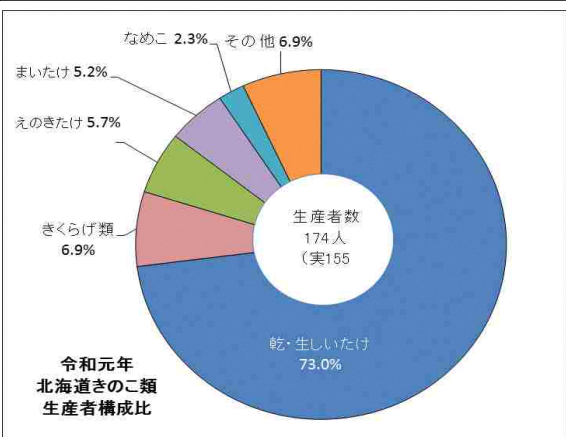
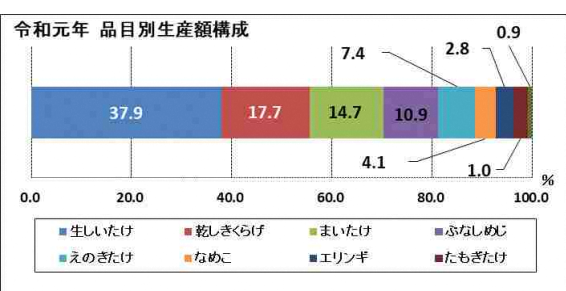
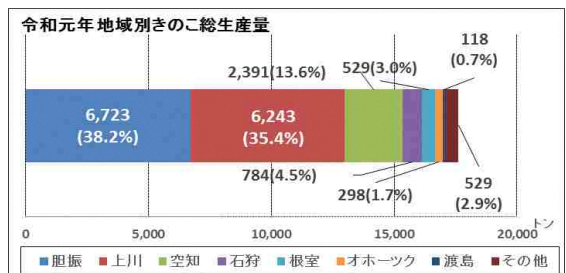
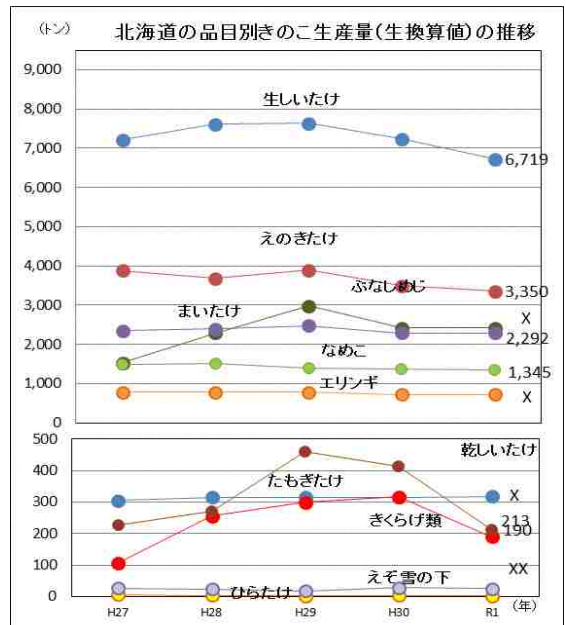
(2) 生産額

令和元年のきのこ類生産額(推計値)は約126億円(前年比113.8%)で、前年よりも約15億3千万円増加している。これは令和元年から、きくらげ類の22億2千万円を加算したことが要因である。(前年まで生産額のデータなし)品目別では、「まいたけ」は約8千百万円(前年比104.6%)「たもぎたけ」は約2千6百万円(前年比107.8%)、増加したが、「生しいたけ」は約5億5百万円(前年比90.4%)、「乾しいたけ」は約1億3千6百万円(前年比44.4%)、「ぶなしめじ」は約1億1千百万円(前年比92.5%)、と「えのきたけ」は約6千4百万円(前年比93.5%)、「エリンギ」は約2千5百万円(前年比94.5%)「なめこ」は約2千4百万円(前年比95.5%)と前年より減少している。

また、生産額全体に占める割合を品目別で見ると、「生しいたけ」が37.9%、「乾しきくらげ」が17.7%、「まいたけ」が14.7%、「ぶなしめじ」が10.9%、この4品目で全体の81.2%を占めている。

(3) 生産者数

令和元年のきのこ類の延生産者数は、174人と前年よりも14人減少し、実生産者数も155人と前年より11人減少している。品目別の延生産者数に占める割合は、「乾・生しいたけ」が127人(原木栽培49人、菌床栽培78人)で73.0%、以下、「きくらげ類」が12人で6.9%、「えのきたけ」が10人で5.7%、「まいたけ」が9人で5.7%、「なめこ」が4人で2.3%となっている。



2 木炭・木酢液

北海道では、古くから木炭(白炭と黒炭)が燃料用として各地で生産されてきたが、「白炭」は平成 22 年以降生産されていない。

令和元年の木炭(白炭と黒炭)生産量の都道府県別順位では、岩手県、高知県、和歌山県に次ぐ全国第 4 位に位置し、全国でも有数の木炭生産地となっている。なお、「黒炭」の生産量は岩手県に次いで全国 2 位となっている。

また、木炭以外では、主に農業用(土壌改良等)に利用される「粉炭」や、農業・家庭園芸用(土壌改良や植物活性等)のほか入浴剤など多方面で用途が広がっている「木酢液」も生産されている。

(1) 生産量

〈木炭(黒炭)〉

令和元年の木炭生産量は 837 トン(前年比 83.2%)で、前年よりも 63 トン減少している。

地域別では、釧路、十勝、渡島地域が主産地で、この 3 地域で全道生産量の 91.1%を占めている。

〈粉炭〉

令和元年の粉炭生産量は 393 トン(前年比 135.5%)で、前年より 79 トン減少している。

地域別では、上川、十勝地域が主産地となっている。

〈木酢液〉

令和元年の木酢液生産量は 52 キロリットル(前年比 139.1%)で、前年より 15 キロリットル増加している。

地域別では、胆振、十勝、上川地域が主産地となっている。

(2) 生産額

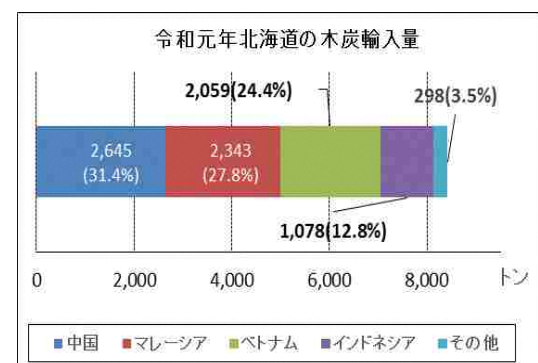
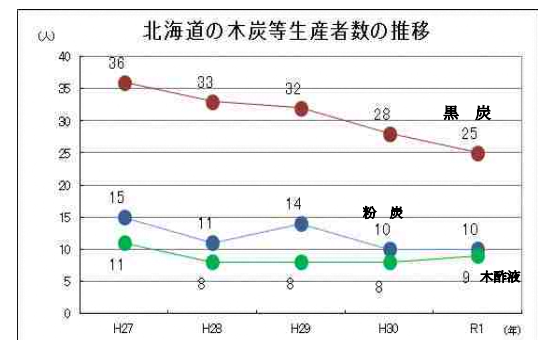
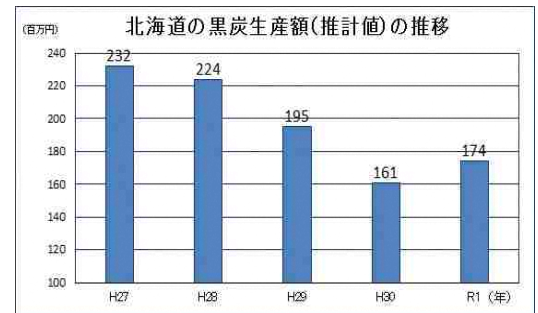
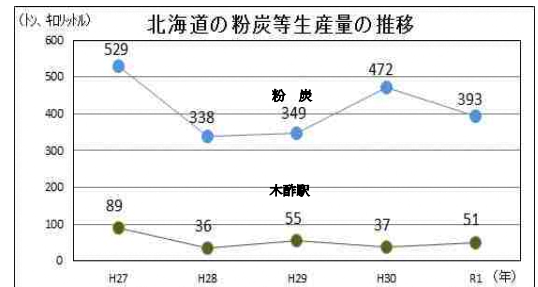
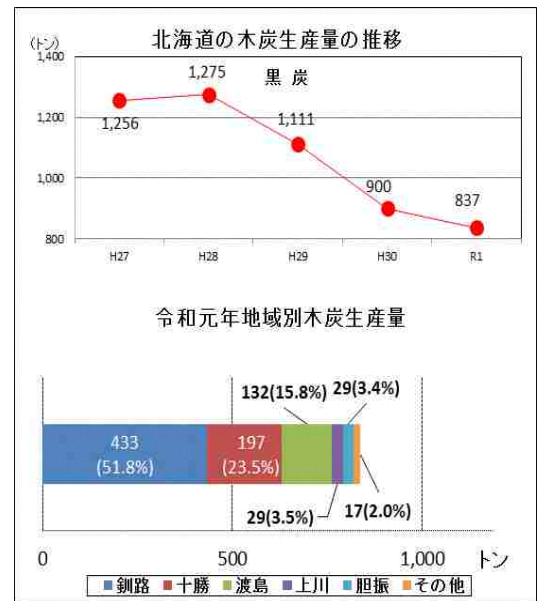
令和元年の木炭生産額は約 1 億 7 千 4 百万円(前年比 108.1%)で、前年より 1 千 3 百万円増加している。

(3) 生産者数

令和元年の木炭等生産者数は、木炭(黒炭)が 25 人で前年より 3 人減少、「粉炭」は 10 人で同数、「木酢液」は 9 人でと 1 人増となっている。

(4) 木炭の輸入

令和元年の木炭輸入量は 8,423 トン(前年比 108%)で、前年より 621 トン増加している。輸入量の国別割合は、中国が 2,645 トンで 31.4%と最も多く、マレーシアが 2,343 トンで 27.8%、次いでベトナムが 2,059 トンで 24.4%、インドネシアが 1,078 トンで 12.8%、となっている。



3 薪

薪は、再生可能な木質資源で、大気中の二酸化炭素を増やさないカーボンニュートラルな燃料として近年注目が集まり、燃焼効率が良く排気ガスもきれいな薪ストーブの開発なども進み、個人住宅等で薪利用の気運が高まっている。

(1) 生産量

令和元年の薪生産量は、10,872 立方メートル(前年比 85.7%)で、前年より1,819 立方メートル減少している。

地域別では、十勝、後志、胆振、釧路、石狩、上川地域が主産地となっている。

(2) 生産者数

令和元年の生産者数は 49 人(前年比 102%)と前年より 1 人増加している。

4 山菜類

北海道で生産される山菜類は天然物の採取が主体で、全国的には盛んに行われている人工栽培の割合が低いため、天候の影響により生産量が大きく左右されるという特徴がある。

北海道で生産されている主な山菜は、「ふき」、「うど」、「ねまがりたけ」、「わらび」で、その他、「ギョウジャニンニク」、「たらのめ」、「こごみ」なども生産されている。

このうち、「ふき」、「うど」、「ギョウジャニンニク」「たらのめ」は、一部人工栽培が行われている。

(1) 生産量

令和元年の主な山菜類生産量は 798 トン(前年比 117.0%)で、前年より 116 トン増加しており、生産量の 92%を占めている「ふき」の増加が大きく影響している。

品目別では「ふき」が 736 トン(前年比 120.9%)、「ねまがりたけ」は 7 トン(前年比 121.5%)と増加したが、「うど」が 44 トン(前年比 79.7%)、「わらび」が 8 トン(前年比 88.8%)と前年より減少している。

地域別では、「ふき」は十勝、オホーツク、空知、根室地域、「うど」は渡島、空知、オホーツク地域が主産地となっている。

(2) 生産額

令和元年の主な山菜類の生産額(推計値)は、約 2 億 2 千 1 百万円(前年比 121.0%)で、前年より 3 千 8 百万円増加している。

(3) 生産者数等

令和元年の主な山菜類の実生産者数は 16 人で、前年と同数となっている。

